

「新しい東北」官民連携推進協議会

**令和5年度  
意見交換会(第3回)**

**福島県**

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2024年2月27日

1. 今年度の企画（実践の場等）の実施報告
2. 実践の場の開催結果を踏まえた意見交換（論点①）
3. 次年度の取組に関する意見交換（論点②）

# ● 1. 今年度の企画（実践の場等）の実施報告

## （1）今年度の企画（実践の場）全体概要

タイトル	“ふるさと愛”プロジェクト in J-VILLAGE あなたに会わせたい「ふくしま」な人 ～72時間スケッチ旅行～		開催日時	2/13（火）～15（木）
			開催場所	Jヴィレッジほか
主催・協力	主催：株式会社 Jヴィレッジ 協力：「新しい東北」官民連携推進協議会（福島県、福島大学、東邦銀行、ふくしま連携復興センター及び復興庁）			
企画趣旨	・ 企画のテーマは、“ <b>「ふるさと」をテーマに、目指したい、目指すべき未来の姿を考える</b> ”こと。企画内容については、R4年度の参加学生も交えた運営委員会において検討。 ・ 全国の次世代を担う学生等に参加いただき、未来を見据え、 <b>福島復興に向けて果敢にチャレンジする地元の方々</b> （＝参加学生等に「是非会ってみたい」と考える“ふくしま”な人） <b>との交流や、現地でのフィールドワーク等</b> を通して“ <b>福島の魅力</b> ”を発見し、 <b>「ふるさと愛」について考える</b> 2泊3日のプログラム。			
参加者数	25名（県内学生：8名、県外学生：16名、県外社会人：1名）	協力事業者数	14事業者	
実施内容	<b>1日目（2/13）</b> ・ 現地事業者訪問（とみおかワインドメニュー 遠藤代表理事） ・ 事業者講話（株オフィスショウ 斎藤氏）／アイスブレイク（芝生でのモルック体験） ・ ワークショップ「ふるさとトークフォークダンス」 ・ 2日目の訪問先マッチング・グループ分け ・ ドローンアートプログラミング（Next Commons Lab 南相馬 大向氏）  <b>2日目（2/14）</b> ・ フィールドワーク（4コースに分かれて現地事業者を訪問。詳細はp7） ・ ドローンアート見学（Next Commons Lab 南相馬 小野氏、大向氏）  <b>3日目（2/15）</b> ・ アウトプット制作 ・ 発表会			

## ● 1. 今年度の企画（実践の場等）の実施報告

### （2）企画の検討（運営委員会の開催）

- 今年度の企画の検討に当たっては、参加対象の学生目線で魅力ある企画とするという観点から、昨年の実践の場参加者等に声掛けを行い、7月より「**“ふるさと愛”プロジェクト in J-VILLAGE 運営委員会**」を設立（Jヴィレッジ（主催者）（2名）、協議会事務局（4名）に加え、副代表団体の皆様（5名）、昨年度の実践の場参加学生からの希望者（6名）、その他副代表団体から推薦があった者（2名）の19名で構成）。**全7回にわたって企画案について議論。**

回	日時	議題	議論の内容（次回までの宿題）	参加人数
第1回	7月18日 18:00～	・ 今年度の企画の進め方に関する説明 ・ プログラム案やアウトプットイメージに関する議論 ・ 次回会議に向けたチーム分け 等	・ 議題の内容について説明 ・ （宿題）チームごとにプログラム内容やアウトプットイメージを議論し、第2回運営委員会において発表	17名（うち、学生6名）
第2回	8月24日 17:00～	・ 各チームからの発表、議論（プログラム案、アウトプットイメージ）	・ おおまかなプログラム案の決定 ・ （宿題）プログラムの名称案、初日のTFDに招待できる、招待したい方案	14名（うち、学生2名）
第3回	9月27日 18:00～	・ 会議の名称に関するディスカッション	・ 会議名称の決定 ・ （宿題）各々が会わせたい「ふくしま」な人案	13名（うち、学生3名）
第4回	10月24日 18:00～	・ 「ふくしまな人」に関するディスカッション ・ 募集リーフレットの報告・募集先の検討	・ 「ふくしまな人」リストからの協力打診者の絞り込み ・ リーフレットの確定	10名（うち、学生2名）
第5回	11月28日 18:00～	・ プログラム案の詳細に関するディスカッション① ・ アウトプット方法の詳細に関するディスカッション①	・ 2日目のフィールドワークのグループ分け・マッチング方法やアウトプットイメージについて議論	11名（うち、学生3名）
第6回	12月27日 17:00～	・ 参加者の応募状況の共有 ・ プログラム案の詳細に関するディスカッション② ・ アウトプット方法の詳細に関するディスカッション②	・ プログラム行程について大枠の決定 ・ アウトプットイメージについて議論	7名（うち、学生1名）
第7回	2月1日 18:00～	・ プログラム全体の確定	・ プログラム全体の確定	13名（うち、学生3名）

# ● 1. 今年度の企画（実践の場等）の実施報告

## （3）参加者募集

- JヴィレッジHPや「新しい東北」官民連携推進協議会HPへの掲載、プレスリリース等により、**11/1～12/20の約2か月間参加者募集**を実施。
- また、特にこれまで他の福島県関係イベントやインターンなどで福島を訪れたことのある（関心のある）**参加者を軸に呼びかけを行うという方針**に基づき、副代表団体の皆様にも協力いただき、参加者募集を実施。
- 結果、福島県内のみならず、全国の大学生等から、当初想定していた定員を大きく上回る32名の申込があり、**25名が参加**。

福島県の復興のシンボル「Jヴィレッジ」を拠点として  
地域の方々が会わせたい「ふくしま」な人  
72時間の体験を通じ、皆様自身の「ふくしま」を見つけてください

ふるさとプロジェクトin VILLAGE

**あなたに会わせたい  
「ふくしま」な人**  
～72時間スケッチ旅行～

**開催日** 2024.2.13（火）～15（木）  
**開催場所** Jヴィレッジ ほか  
（福島県双葉郡楳葉町山田岡美シ森8）  
**参加対象** 福島県内・県外の大学生、若手社会人  
**定員** 20名程度  
（応募多数の場合は抽選を行います。）  
**申込み** 申込み締切：2023.12.20（水）  
申込み URL：https://questant.jp/q/L9GYEHAV

申込み QR コード **参加無料  
事前申込制**

本プログラムは、地元の人との交流や、現地のフィールドワーク等を通して「福島の魅力」を発見し、「ふるさと愛」について考える2泊3日のプログラムです。  
1日目は地元の人たちとの交流を中心に福島県の現状を知り、2日目はフィールドワークとして、1日目に交流した地元の人たちが活躍されている現場を訪問します。最終日には、2日間を通して感じた「ふるさと愛」について皆様に発表いただきます。  
プログラムの詳細については、以下HPにおいて随時更新します!!  
https://j-village.jp/?p=7178&preview=1&ppp=41e5de71e8

主催/協賛会社 Jヴィレッジ  
協力/「ふるさと愛」官民連携推進協議会（福島県、福島大学、東京銀行、ふくしま連携推進センター）及び15選実行  
お問い合わせ先「新しい東北」官民連携推進協議会事務局 HP: https://www.newtohoroku.org/  
Mail: newtohoroku@newtohoroku.jp Tel: 03-6280-1222（受付時間：9:30～17:30 土日祝日除く）

※ QR コードは、株式会社デザインワークスの登録商標です。

# ● 1. 今年度の企画（実践の場等）の実施報告

## （4）企画の実施報告

### ① ワークショップ「ふるさとトークフォークダンス」について

- ワークショップ「ふるさとトークフォークダンス」については、以下の実施方針の下、今年度取組を実施。

#### 【今年度の実施方針】

ふるさとTFDは、**復興庁事業（Fw:東北 Fan Meeting）で試行。**

試行結果を踏まえた**ひな型を各団体に提供、各団体で試行実施。**

- 5月に実施したFw:東北 Fan Meeting「移住コーディネーターのためのふるさとワークショップ」をベースに作成したワークショップフォーマットを公開。
- 一般社団法人移住・交流推進機構（JOIN）主催の**「JOIN移住・交流&地域おこしフェア2024」（2024年1月13日・14日）のステージイベント**としてワークショップを開催（2日間で44名が参加）
- 今回のプログラム「あなたに会わせたい「ふくしま」な人～72時間スケッチ旅行～」の中でも、**1日目に学生等の参加者と協力事業者等との間で対話を行うワークショップ**を開催





# ● 1. 今年度の企画（実践の場等）の実施報告

## ② 「ふくしま」な人との交流・フィールドワークについて

- 「ふくしま」な人との交流・フィールドワークとして、
  - ・ 1日目：**とみおかwindメニューの訪問**、Jヴィレッジの芝生管理を行う**(株)オフィスショウの講話**
  - ・ 2日目：4コースに分かれての**「ふくしま」な人の訪問、ドローンアート体験**等を実施。

**<コースA>**

9:00	9:45	11:45	13:00	15:00
Jヴィレッジ	Next Common Lab	(昼食)	任意団体なみとも	
(アート：南相馬市小高区)		※浪江町内	(移住：浪江町)	
15:30	17:30	17:50		
富岡町3.11を語る会	Jヴィレッジ			
(伝承：富岡町)				

**<コースB>**

9:00	9:20	11:20	13:00	15:00
Jヴィレッジ	宮田運輸	(昼食)	まちづくりなみえ	
(移住：富岡町)	※浪江町内		(まちづくり：浪江町)	
15:10	17:10	18:10		
浪江町スポーツセンター	Jヴィレッジ			
(伝承：伝承(浪江町))				

**<コースC>**

9:00	10:00	12:00		
Jヴィレッジ	一般社団法人島尾村づくり公社	(昼食)		
	(まちづくり：島尾村)	※大洲町内		
13:30	15:30	18:00	18:00	18:20
一般社団法人おおくままちづくり公社	地域おこし協力隊	Jヴィレッジ		
(移住：大洲町)	(健康増進：新井町)			

**<コースD>**

9:00	9:20	11:20	12:40	14:40
Jヴィレッジ	とみおかプラス	(昼食)	(一社) AFW	
	(移住：富岡町)	※富岡町内	(防災：富岡町(南相馬市))	
			※1-3社(1+1+1)とみおか	
18:00	18:00	19:05		
図書館	Jヴィレッジ			
(まちづくり：新井町)				



## ● 1. 今年度の企画（実践の場等）の実施報告

### ③ アウトプットについて

- 2日目のフィールドワークでの訪問先について、**訪問・交流を通じて感じた参加者の想いも盛り込んだパネル（A1サイズ）を事業者ごとに制作。**
- 制作したパネルはポスターセッション形式で発表し、協力事業者や参加者同士からフィードバックを実施。心に響いたポイントがあった場合には「愛ポイント（ハート形のポストイット）」を貼付。



- 作成パネルについては、**Jヴィレッジ館内エントランスに掲示。**





## ● 2. 実践の場の開催結果を踏まえた意見交換（論点①）

### 論点 1

本年度取り組んだ企画について、これまでの報告等を踏まえ、**良かった点／反省点・改善点等**について、ご意見いただきたい。

＜事務局・運営側としての振り返り＞

#### ① 運営委員会方式での検討について

##### ✓ 学生の参加

- ・ **タイトル、行程、発表方法など学生の意見を取り入れた企画**となった
- ・ 運営委員会メンバーの学生から学内に呼び掛けるなど、**参加者募集につながった**

##### ✓ 地元自治体職員等の参加

- ・ 地元自治体職員等の参加による**訪問先の案出しの円滑化**（今回訪問しなかった方を含め、60名を超える「ふくしま」な人が挙げられた）
- ・ 地元自治体職員等からの紹介者については、事前説明等で**既存の関係性を活かした調整**が可能

##### ✓ 反省点・今後の展望

- ・ メンバー数が多く、**日程調整等が困難**であった（日中は授業等で学生の参加が困難）
- ・ メンバーの共通意識として、**プロジェクトを自分事としてとらえていただく仕掛け**が必要
- ・ タイトル・コンセプト設計が終了した後の**企画の詳細設計**を行う段階では、**学生から意見を伺うメリットは小さくなる**

。

## ● 2. 実践の場の開催結果を踏まえた意見交換（論点①）

### <事務局・運営側としての振り返り> (2/2)

#### ② 企画内容について

##### ✓ 事前準備（訪問先の調整等）

- ・ 主催者であるJヴィレッジと協議会事務局との間で適切な役割分担が必要
- ・ 地元自治体職員等からの紹介者については、事前説明等で既存の関係性を活かした調整が可能（再掲）
- ・ 協力事業者が多いため、事業内容等の説明会等を丁寧に実施することが必要
- ・ 協力事業者からの提案により、ドローンアートなど当初の想定を超えたコンテンツを盛り込むことができた
- ・ 冬季に実施したため、体験内容・訪問先に制限が生じた
- ・ 福島に関心のある層への個別アプローチの結果か、参加者の意欲が非常に高かった

##### ✓ 当日プログラム

- ・ 参加者から「色々な人と話せ、深く学べる」「現地の人の考えや想いに触れることができた」といった声が聞かれるなど、満足度の高いプログラムとなった
- ・ 行程として、2泊3日というスケジュールはちょうどいい長さであった印象。一方で、1日目は過密なスケジュールであった印象がある  
→ 1日目8時半郡山集合というスケジュールを昼出発に変更する余地ありか。また、Jヴィレッジに前泊することも一案か。

##### ✓ パネル形式による発表

- ・ 各グループごとに3事業者分のパネルを作成する形としていたが、各人それぞれの特徴を活かしながら作業分担するなど、短期間でありながらチームとして発表に臨んでいた。
- ・ パネル作成について、手書き・PCでの作成を可とした。ほとんどがPCでの作成となったが、手書きの良さを生かした発表にするなど創意工夫が見られた。
- ・ チームごとに15分の持ち時間で発表+1時間のポスターセッション形式で発表。特にポスターセッションでは、参加者とオーディエンスとの間で活発な意見交換が行われた。
- ・ 時間の制約もあり、事業者への再確認、ファクトチェック等が不十分な部分がある

### ● 3. 次年度の取組に関する意見交換（論点②）

#### 論点 2

今年度の取り組みを受けて、以下について議論したい

- ① 次年度の取組として、本年度と同様の内容の企画を継続するか
- ② 継続する場合の各論点について、どう考えるか

#### ◆ 議論のポイント

##### ・ 次年度の取組として、本年度と同様の内容の企画を継続するか

- 事務局としては、本年度の企画について、若い世代に福島県が抱えている課題や魅力を伝えるとともに、現地事業者間の連携の創出につながるポテンシャルを秘めているのではないかと考えています。
- 一方で、今後、主催のJヴィレッジのみによる継続的な企画として実施されるためには、まだ課題もあるため、**次年度は、必要な見直しをしつつ、協議会の福島県の取組として引き続き連携・協力することが一案**として考えられますが、この点についてご意見をいただきたく存じます。

##### ・ 来年度協議会として継続実施する場合には、以下のような点をどう考えるか。

###### ◎ 令和7年度以降も継続した取組とするための検討

- ✓ 多数の事業者を巻き込んだ調整を行うことを考えると、**運営主体が直接すべての事業者と調整するのではなく、現地自治体や地域おこし協力隊を介して各事業者と調整する体制を組むことが適当とも考えられます。**こうした**運営体制に関する意見**をいただければと思います。

###### ◎ 最終成果物の位置づけ

- ✓ 行程や事業者の選定・調整等に時間を取られ、**最終成果物の位置づけ／企画後の活用方法／成果物の事業者の確認方法等まで詰め切った企画にはなっていませんでした。**来年度の最終成果物について、アイデア等をいただければと思います。

###### ◎ 取組の横展開・事後展開

- ✓ 取組の横展開・事後展開について、第1・2回意見交換会でも以下のような案が挙げられました。また、「ふるさと愛プロジェクト」という名称には、今後の多様な主体での横展開への期待が込められています。  
**各副代表団体で、同プロジェクトの冠を付した企画の実施の余地はないか、**ご意見いただければと思います。

（第1・2回意見交換会で挙げられた意見）

Jヴィレッジのホームページ上での継続発信／愛ポイントの通帳作成、訪問時のインセンティブ付け／人に会いに行く旅行／大学の単位との関連／参加者の学園祭での魅力発信／県外に出た若い女性へのアプローチ／インターンシップとの連携 等

## 參考資料



## ● 参考：参加者・協力事業者一覧

参加者 (25名)	所属部・課名	学年	年齢		所属部・課名	学年	年齢
	福島大学 人間発達文化学類	1年	18歳		岩手大学 農学部	1年	19歳
	福島大学 人間発達文化学類	2年	21歳		岩手大学 農学部	1年	19歳
	福島大学 人間発達文化学類	3年	21歳		岩手大学 農学部	1年	19歳
	福島大学 人間発達文化学類	3年	21歳		東京大学 工学部	2年	20歳
	福島大学 行政政策学類	2年	21歳		東京大学 教育学部	3年	21歳
	福島大学 行政政策学類	3年	21歳		早稲田大学 文化構想学部	2年	19歳
	福島大学 行政政策学類	4年	24歳		関東学院大学 国際文化学部	3年	21歳
	福島工業高等専門学校 ビジネスコミュニケーション学専攻	6年	21歳		関東学院大学 国際文化学部	3年	21歳
	東北大学 工学研究科	1年	25歳		関東学院大学 経済学部	1年	21歳
	東北大学 工学研究科	1年	25歳		立命館大学 理工学部	2年	19歳
	東北大学 医学部保健学科	1年	18歳		岡山大学 法学部	2年	19歳
	東北大学 金属材料研究所	4年	23歳		高知大学 教育学部	1年	19歳
	一般社団法人fumoto（岩手県洋野町）		35歳				

協力 事業者等 (14団体・ 個人)	地域	団体・個人名	地域	団体・個人名
	富岡町	(一社) とみおかワインドメーヌ 遠藤 秀文 様	浪江町	任意団体 なみとも 小林 奈保子 様
	富岡町	(一社) とみおかワインドメーヌ 細川 順一郎 様	葛尾村	(一社) 葛尾むらづくり公社 山口 和希 様
	東京 (檜葉町)	(株) オフィスショウ 齊藤 健 様	南相馬市	(一社) AFW 吉川 彰浩 様
	富岡町	NPO法人 富岡町3・11を語る会 宗像 涼 様	南相馬市	Next Commons Lab 南相馬 小野 雅也 様
	富岡町	(一社) とみおかプラス 香中 峰秋 様	南相馬市	Next Commons Lab 南相馬 太向 弘明 様
	富岡町	(株) 宮田運輸 建野 成恒 様	飯舘村	図図倉庫（合同会社MARBLiNG） 矢野 淳 様
	浪江町	東日本大震災・原子力災害伝承館 葛西 優香 様	大熊町	(一社) おおくままちづくり公社 山崎 大輔 様
	浪江町	(一社) まちづくりなみえ 菅野 孝明 様	檜葉町	地域おこし協力隊 岩田 恭宗 様

## ● 参考：②参加者アンケート結果

Q.今回のプログラム「全体」の満足度をお答えください。（5段階評価 n=21 単位：%）



### <意見抜粋>

- 福島で活躍する人の話を聞き、活動するきっかけや、思いを深く知り、ふるさと愛について考えることができた3日間であったから。一人一人の言葉に込められた思いが素敵でした。「人と人との間に幸せが生まれる」という言葉が1番印象的です。
- 同じコースのみんなと仲良くできてとても楽しかったです。彼はドローンとかトークフォークダンスをするおかげだと思います。また訪問先の人のお話を心に刺さるようなもん、人生の教訓となるような考え方や震災を経験したからこそそのその心情とかそういったところを聞くことができすぎてすごく充実しました。また中には、人生のこれから歩いていく道の中で選択するときに、きっと役に立つような考え方。もっておかないといけない考え方っていうのがすごいあって心に刻まれました。
- 福島の復興について学びたい人から旅行感覚で参加した人など様々な目的を持って参加している参加者がいるが、どのような目的を持っていても、その目的を達成できるプログラムを組んでいただき、もちろん私自身の目的も達成できたので、本当に学びの多い貴重な2泊3日でした。
- ふくしまなひと、大学生、運営の方々など、さまざまな人と言葉を交わし、その考えに触れることができとても楽しく感じました。運営会議の時から言われていたことですが、グループが分かれることで自分の興味のあるコースを深掘りできるのはとても良かったです。他のチームのコースにもいってみたい気持ちも強まりました。
- 事業所訪問、ポスター作りを通して、福島の復興や発展し続ける福島、そして新しいことを始めるために必要なことなどを学ぶことができた。将来に活かしたい。
- 初めての福島県のため、すべて新鮮な気持ちを持ちながら浜通りの復興に歩んできたことを学べてよかったと思いました。また、原発事故でなかなか行きにくい浜通りは意外と楽しめることがたくさんあると思いました。例えば、夜の発電所の姿です
- 福島県の現地の方々に会い、実際に話すことで、外からは分からない、復興への取り組みや思いを学ぶことができたから。私は福島県を訪れたことがなかったが、現地の方々の熱意を肌で感じ、次はインターンなど、さらに深い関わりを持ちたいと思った。また、モルックやグループワークを通して、参加者同士の仲が深まったので、非常に楽しい三日間だった。
- 福島の震災後の取り組みを、様々な体験を通して知ることができた。加えて、全国から問題意識を持つ若者が集まり、考えや思いを共有する場にもなっていた。
- 様々な活動をされている事業者の方を訪問し、事業者の方それぞれの想いや考え方に触れることができた。事業者それぞれの考え方の違いや、自分のこれまでの考えと違う考え方にも触れられたため、非常に良い経験ができた。

## ● 参考：②参加者アンケート結果

Q.ワークショップ「ふるさとトークフォークダンス」の満足度をお答えください。（5段階評価 n=21 単位：%）



### <意見抜粋>

- 「ふくしまなひと」たちと、お互いのふるさとについて一対一で深く話すことができて楽しかったから。共通点も見つかり、良い出会いでした。
- ほんとにあの参加者同士のコミュニケーションだけでなく、これから訪問する企業の人だったり、この授業のプロジェクトの関係者の人とお話しすることで、そこからの三日間すごい誰とでも話せて、距離感がなく、困った時はすぐに助けを求めていけるようなそんな雰囲気作りになったんじゃないかなと思います。とても良かったと思います。
- 色々な方と率直に意見交換ができた。様々な職種年代立場を超えて話すことができた。
- 取り組み自体はとても面白かったです。ただ、みんなで一斉に話すので、相手の声が聞きづらく、やりにくかったです。
- いろんな方々とお話しできてありがたかったが、自己紹介でほとんど終わってしまい、故郷に関する深掘りはあまりできなかった。ただ、この企画の目的は次の日につなげることだと思うので、その点で見ればとても良い企画だったと思います。
- 短い時間でのディスカッションを、複数人と繰り返すことで、徐々に自分の中の発想が広がっていく感覚があった。非常に楽しかったため、再度やりたい。また、私は教員を目指しているため、授業で取り入れたいと思った。
- ご当地で活動されている方々と“ふるさと”を語るうちに、“ふるさと”に対する共感できる点がいくつかある一方で、考えていなかった点も複数があるため、相手の語っていたふるさとへ一度行ってみたいと思いました。また、その違った点を考えながら自分のふるさとでもあるのではないかともう一度認識したい気持ちになりました。

## ● 参考：②参加者アンケート結果

Q. 「アウトプット」の作成について、満足度をお答えください。（5段階評価 n=21 単位：%）



### <意見抜粋>

- 自分でできることを率先して行い、**短時間集中型で素敵なポスターを完成させることができた**から。
- 皆んなそれぞれな力を出していい作品を出ました！やはり**チームワークは最高**ですね
- 本当同じコースになった人を、そしてこのプロジェクトに参加している学生たちみんなそれぞれいろんな思いがあって参加してて一人ひとりが魅力的だなと思いました。そんな人により交流深める。やっぱり1カ所目の富岡プラスさんでも行けたように**共同で何かをやることで仲も深まる**んだなぁと実感しました。またすごい楽しい思い出だったそうで、ポスター作りを初めてでしたので、構図だったり文字の大きさだったり、写真の撮り方だったり、インタビューの仕方だったり様々な面で勉強になりました。
- なかなか詰める情報量が少なくなってしまうのが難しかった。レイアウトのような雛形をジェンティーレさんに用意してもらっていたので準備はしやすかった。
- 私はbちーむでして、2日目の夜は他のみんなは早々に切り上げてしまいました。作成時間が翌日朝の3時間くらいで足りると思っていました。まぁ結局時間はそれで十分すぎるくらいにあったのですが、より良いものを生み出すのならもう少し時間をかけても良かったとは思っています。自分としては**今回のアウトプットがこれでいいのかよく分かりませんでした**。ふるさと愛、がテーマだったし、1日目はふるさととは。という議論を長時間にわたってやっていたと思うので、**最終的なアウトプットはふるさとについて言及しなければならないのかな**と思いつつ、一方で**活動紹介のような記事が出来上がってしまいました**。故郷についてもっと深堀するなら葛西さんとのお話の時間はもっと欲しかったと思います。
- **今回の研修で感じたこと、学んだことは膨大だったのでそれをアウトプットすることで自分の考えを整理できたり、学びを深めることができました**。発表も大勢の大人の前で発表することがなかなか無かったので、緊張しましたが、とても良い経験になりました。
- 限られた時間の中でアウトプット作成する、というところで慣れ不慣れがあったように思います。アウトプットの作成目的をもう少し説明いただきたかったです。(そのポスターを見た人がその後どうすることを想定しているのか、どのような場所に置くのか等)
- 慣れない作業で戸惑った事もあったが、体験できたことに意味があったと思う。**これから社会に出たときに必要となるスキルであるため、練習したい**と思った。
- 他チームのポスターのデザインとキャッチフレーズはすごくよかったと思いました。協力者の思いがすぐ伝わると思います。
- レイアウトから考え、文章のまとめ方やキャッチコピーなどについて積極的に提案し、仲間と協力してひとつのポスターを完成できた。また、**班のメンバーのまとめ方からも学べる**ことがあり、それぞれの想いを伝え合いながら作ることが大事だと感じた。



## ● 参考：②参加者アンケート結果

Q.「発表会・フィードバック・懇親会」全般についての満足度をお答えください。（5段階評価 n=21 単位：%）



### <意見抜粋>

- 皆んな凄く優しいし、丁寧です！ご飯もいっぱい準備しました。ありがとうございます。でもちょっとスケジュールは満々なのでちょっとる疲れました。
- みんなが発表をつけて、それに加えて、自分の興味がある発表のところに訪れて質問する時間もあってすごい勉強になりました。そして来年もしプロジェクトがまたあったら参加させていただいて、他の福島の人に会いに行きたいなと思いました。
- フェーズ2は楽しくできたが、フェーズ1では少し最後の方はみんな疲れてそうだった。座れたらよかったのかもしれない。
- ポスター、一つ一つをデータにして共有していただけると、もう少し一つ一つゆっくりみれたのかなと感じました。フィードバックの時間に学生がかたまっているところはゆっくりみることができなかったです。
- ポスターを作成するだけでなく、発表会も設定されているのはとても良かったです。特に15分もいただけたのはありがたかったです。懇親会では結局いろんな人とお話してポスターをゆっくり見られなかったのが少し残念ですが、新たな出会いや学びがありました。
- 大熊町の方が私にもう一度浜通りへ来たいという質問でした。今回のツアーは訪問先が限られていたため、浜通りのことはほんの少しだけ知りましたが、浜通りへもう一度行ってみたいと思っています。
- 今回全ての訪問先に行くことは出来なかったが、他の班の発表を聞き、復興に向けて頑張っている方が沢山いるのだと改めて感じた。また、他の班のまとめ方もそれぞれ違って、どのポスターもとても素晴らしかった。
- 他のチームの発表を聞き、自分がお話を伺っていない方の人生や考えを知れた。参加者の皆が、熱意を持って伝えようとする姿を見て、本当にふくしまな人について知ってもらいたいという思いを持っているのだと感じた。懇親会では、自分が気になったところへ質問に行き疑問を解消したり、自らが質問に答えることで改めて理解を深めたりすることができた。
- 自分が二日目に回らなかった三コースの事業者さんについて知ることが出来た。事業者さんの間でも、人それぞれ考え方が違って、発表を聞いていて面白く感じた。懇親会では、他班の発表内容について深いところまで質問が出来たり、事業者さんと話すことも出来、発表にプラスして更に色々なことを知ることが出来た。
- 互いに質問し合ったり、ちょっとお話ししたい方と語り合ったり。というような空間がとても幸せだと感じた。あのよう浜通りの発展に携わっている方々が集まって学生とお話してくれる機会はなかなかないと思った。

## ● 参考：②参加者アンケート結果

Q.あなた自身の「発表」についての満足度をお答えください。（5段階評価 n=21 単位：％）



### <意見抜粋>

- アイコンタクトのとり方が良かった。本番で緊張して言いたいことが途中で分からなくならないように発表できるようになりたいとも思った。
- 同じポスターシステムと協力して、役割分担して、お互いが1番心に残った事で話せて伝え方としても良かったのかなと思っています。楽しかったです。
- どうしても本人ではないので詳しく本音話すことはできなかったのに、あくまで自分の感じたことや発していた言葉を使うしかなかった。特に思いについてはそれが曲がって伝わらないか少し心配だった。
- このアウトプット作成にあたっての見て欲しいポイント、取材対象者の思いを乗せて発表しました。改善したいところなどは特にないかと思います。
- 時間が限られていて、全てを話せた訳ではなかったのですが、班のみんなと協力して助け合って発表できたので、満足度は高いです。
- 自分が惹かれた山口さんの想いを聞いている人にうまく伝えられるように工夫しましたのでそこが伝わっていると嬉しいです。
- 3日間学んだ事も含め発表することができた。緊張で言葉が詰まった時もあったが、思いの丈を述べることができたためよかった。
- AFWの吉川さんについて、私が伝えたいと思った、大切にすべき人生の軸について、しっかり伝わったと思うから。あとから、他の参加者の方に、非常に分かりやすい発表だったと言ってもらえて嬉しかった。しかし、伝えたいことが多すぎて、文字が多くて若干見にくいポスターになったのは反省点。
- 原稿を作っていなかったが、その中で資料に載せた部分も載せなかった部分も自分なりに言葉にすることが出来たと思う。ただ、参加者の皆さんが非常に話すのが上手かったので、もっと人前でしっかりと話せるようになる必要があると感じた。
- ほとんどアドリブだったので、言いたいこと全部言えたわけではないが、アピールしたい点・あまり語らずに後から読んでほしい点は分けて説明することができたと思っている。
- 台本を予め考えていたため、それに沿った発表となってしまう、自分の率直な思いをこめたり感情を込めることが不足していた。次そういった機会があったら改善したい。
- 他の参加者の方に共有したい内容や”フクシマな人”の魅力を伝えることが出来たと思う。緊張して、言葉が飛んでしまったところがあったので、そこは今後改善したい。
- 訪問先の方についてもっと説明してもよかったと思います。よりよく、街も人も豊かにしたいという地域の方々の気持ちをもっと伝えられたらよかったと思っています。

## ● 参考：②参加者アンケート結果

Q.今回のプログラムに参加することで、参加する前よりも、福島県の復興の取組への関心が深まりましたか。  
(5段階評価 n=21 単位：%)



Q.今回のプログラムをあなたの知人・友人にお勧めしたいと思いませんか。(5段階評価 n=21 単位：%)



## ● 参考：②参加者アンケート結果

Q.今後、あなた自身が福島復興について関われること、取り組めることとしてアイデアがあれば、お聞かせください。（n=21）

### <意見抜粋>

- 今回の経験を身近な人に伝える。周りを見て行動する
- やはりいい出会いが大切
- 子どもの放課後支援、復興公営住宅でのコミュニティ作り(災害ボランティアで現在も行っている活動)
- もっと遊び場があるなら旅行をもっと楽しくなるかもしれません。
- 福島の良い所良い所って言うていいのかわかりませんが、震災があったことによってゼロになったこのフィールドそしてその地域の関係ってというのはゼロにはなったものの、新しい形って言うのは馴染みやすい地域なのかなと思いました。今もやわらない放射線による風評被害の寒さなどに対するそういったものをなくするためにプログラムでの体験経験を誰にでもわかりやすく伝えて全然大丈夫なんだよと。そんな面白いことをしてる。街やろと伝えることがすぐにできる。自分が福島に対するお礼じゃないですけども、恩返しになるのかなと思います
- 旅行に行きます。
- 福島県と立命館大学で連携協定が結ばれています。そこを活用して立命館大学内にもっと興味のある人を増やし、たくさんの学生を福島に連れてくる、というのが私の福島に関わり出して以来の夢です。
- 現時点では今回学んだことを発信していくこと、が私にできる大きなことかなと考えております。今回出会った、福島のために活動されている人たちを応援するために、どんな活動が行われているか、広めていきたいです。
- 大熊町の義務教育学校に関わってみたい。浪江町での未就学児や小中高生の居場所支援等に関わってみたい。
- 今回のプロジェクトを通して学んだことを友人知人に話すこと。SNSを通して発信すること。
- 自分から、香港の友たちに福島の復興や処理水のことを日本人だけではなく、外国人にも福島の復興について発信することです。日本国内の留学生を誘い、留学生らの力を借りて海外の方に情報発信はいいかもしれないと思いました。
- ふくしまの商品を買ったり、福島で作られた食べ物を食べて、ふくしまの人々を応援する。ふくしまのものを県外の人を買って渡し、ふくしまの魅力を知ってもらう。SNSを利用して福島の魅力を発信する。



## ● 参考：②参加者アンケート結果

Q.今後、あなた自身が福島復興について関われること、取り組めることとしてアイデアがあれば、お聞かせください。（n=21）

### <意見抜粋>

- 今回のプログラムでは、福島での学生インターン活動やボランティア活動に関するご紹介をいくつかいただいた。これらに参加することで直接的に復興や地域おこしに関わっていけると考える。また、今回私が学んだことを福島県外の人にも伝えていくことが大切だと考える。今回制作したポスターを発信していったり、全国各地で復興について知ってもらい、また、実際の声を伝える機会があれば良い。私は岡山県に住んでいるので、中四国地方でこのようなイベントが行われれば、ぜひともお手伝いしたい。
- このプロジェクトを続けて欲しい。
- まずは、今回体験したことを発信すること。自分は大規模な発信は出来ないが、身の回りの友人や先輩、後輩に伝えることで、福島について関心を持つ人が増えると思う。その他には、旅行などで浜通りを訪れてお金を使うこと、ボランティア活動などで微力ながらも復興に関わることが出来ると思う。
- 今回関わった方々にアポをとって、積極的に現地を学ぶ姿勢を持つことが重要だと思った。大学生という時間がある期間にたくさん少しお金をかけてでも吸収すべきだと思う。
- 得意であるアートを活かした復興の形
- 若者ならではのSNSの運用ができればと思った
- 将来、福島の復興に関わる仕事に就きたいと思う。
- 今回、このプロジェクトに参加してみて、今までの自分は正直「浅く広く」表面的な関わりしかできていなかったと感じた。今回できた人と人との繋がりを活かして、もっと積極的に関わっていきたいと思う。ex.)直接連絡してお話をお伺いしたり、浜通り地域で行われるイベントにもっと参加する、ボランティアや企画側にも携わる…etc
- 他のグループの体験先の方がおっしゃっていたのですが、その土地のものを買うことも支援の一つであると聞きました。お土産にたくさん福島生まれのものを買わせていただきましたが、とても美味しかったのでまずはリピートしたり、気になったけど買えていないものを購入したらしていきたいです。

## ● 参考：②参加者アンケート結果

Q.今回のプログラムのような福島の復興に関する取組・イベントに対してアイデアがあれば、お聞かせください。  
(n=21)

### <意見抜粋>

- また参加したいです。次はもっと色々な人と関わる時間を増やしたら、より有意義になると思います。
- 県外で行われている、復興を支援する取り組みについて知る機会がほしい。できればそのような企業や人を訪問したい。
- 福島にたくさん来ている人が何回も行くのいいが、全くきてない人を連れてきて体験させる、ある種修学旅行的なものも効果があるのではないかと感じた。
- 2泊3日でも充分知ることが出来ました。2日目Bチームだったのですが、伝承館を見た事がある人は7人中6にんでした。それを踏まえて、事前に訪れたい場所をいくつかの中からピックアップしてもらい、それを元にチーム分けをする、というのいいと思いました。あの短い時間で自分の行きたいチームを決めるのは難しく、何人か意図のそわないところへ変更せざるを得ない人もいました。手間が増えて難しいとは思いますが、事前にある程度質問事項を用意し、それを元にチーム分けをしてみたらみんなの満足行くような形になると思いました。また、できるならもう一泊増やして浜通りの伝承施設を巡る旅もあったらいいなと思います！
- 学生の中でも、メリハリのない方がいらっしまったので、お金をもらって参加させて頂いている以上、プログラム中はメリハリをつけて参加するように最初に案内があると良いのかなと思いました。また、班のメンバーと2日目の研修の後、感じたことなど、話し合う時間もあれば良いなと感じました。
- 学ぶだけでなく、何かしらのアウトプット(実際の活動に繋げる)等になれば面白いなと思います。
- 1人の事業者と昼ごはんを挟んで1日みっちり話す機会があれば良いと思う。
- 今回のようなプログラムのように福島の復興のために頑張っている方々取材し、SNS等のアカウントを作り発信していく。
- 今回のプログラムでは、福島へ移住してきた方にお話を伺うことが多かったが、震災前から福島に住んでいて、避難後帰還してきた方、また、帰還していない方など、立場の大きく異なる方と対話する事でより多角的に復興の現状を学べるのではないかと考える。
- 今回のような企画を、高校生世代など、今回の参加者よりも下の世代に対しても行う。
- 特にいい案があるというわけではないが、今回のような企画はそもそも双葉郡に興味があったり、少しでも訪れたことがある人しか興味を示さないのではと感じた。福島県に引っ越してきて感じたのは、福島県出身者でも双葉郡のことを詳しく知らない人はいるということであった。だからこそ、全然知らないという人でも気になるような企画、もしくは宣伝の方法があるのかもしれないと感じた。

## ● 参考：②参加者アンケート結果

Q.今回のプログラムのような福島復興に関する取組・イベントに対してアイデアがあれば、お聞かせください。  
(n=21)

### <意見抜粋>

- アートを通したイベント 学生が制作したり 子どもたち、地域の方々と共同でも面白いと思います。造形活動といって、主に子どもたちが楽しみながら学べる形態を取るのも良いと考えます。
- パワーポイントのスライドを用いて発表するようなプロジェクトもいいなと思った
- 今回の企画のフォークダンスや少人数の班ごとのフィールドワークのように、自由に交流したり質問できたりする取り組みが増えれば、さらに復興への理解や自分が関わっていきたいという思いを持つ人が増えることに繋がると思う。
- フィールドワークツアーのようなものはたくさんあるが、今回のようなプログラムはほとんど見かけない。そのため、来年以降も続けていけたらな…と感じている。”復興”にこだわったプロジェクトではないため、持続可能なプロジェクトであると思う。それに加えて、浜通りで活躍する魅力的な方々を知る良いきっかけにもなり、それが間接的に町の活性化、復興にも繋がると思う。
- 良いギブアンドテイクであったと思います。この後に別の地域で特産品を販売するイベントを行うのに同じ学生たちが販売員として直に魅力を伝えるというのもいいかなと思いました。

## ● 参考：③協力事業者アンケート結果

### Q.今回のプロジェクトの感想をお聞かせください。（n=10）

- その場で起きていることを大切にしている感じがあり、全体としては良かったと思います。課題を上げるとすれば、1日目の訪問先決定から、食事・懇親の流れに対する案内がなく、残っていてもどうすればいいかわからなかった。参加者と事業者も完全に分断されている状態であり、会話をする状態でもなかった。事業者側としては、あの場面でいったん冷める感覚になる。
- 趣旨と依頼内容が分かりづらかった。2日目のフィールドワークでは、学生の積極的な姿勢や絶えない質問に熱意の高さを感じました。
- やりたいことをやらせていただけてありがとうございました！ 対面して関わらせていただいた今だったら印象が違うかと思いますが、予算がギリギリまで見えなかったのが、動きにくかったです。自営業にとって、スケジュールを1日あけてもらうというのは、こちら（依頼する側）の信用をかけた死活問題なので、まずはご予算を提示していただき、できるかできないかの判断をすぐにする。という流れがスムーズだと最高でした。前日に大型バスになったことが明らかになるなど、さまざまな場面で遅いなって思う点はありましたが、僕もこういったプロジェクトは主催することがあるので、運営者さんの気持ちもわかります。次年度協力したいと思うかのアンケートは、その点がクリアされれば、素敵な企画だと思うので、協力したいです。
- 未来ある若者、自身のためにも大変有意義な時間になりました。
- 浜通りで活躍される方々のお話を聞くだけでなく、ポスターという形でアウトプットするのは、学生にとってとてもいい経験になったと思います。私自身、今回が外部から来た人たちへの案内というのは初めての経験だったので、とても勉強になりました。また、機会があればぜひ協力できればと思います。
- 学生が真剣に私の話を聞いていただき、質問も沢山いただきとても良かったです。
- 人を通して地域を知る、とても良い企画だと思います。参加者のモチベーションが高く、こちらとしても説明のし甲斐がありました。
- 個性のある学生さんたちで、現地リサーチ体験からの、自分たちの表現にまとめていくというプログラムが生きていたと思いました。ただ3日間全参加だとJビレッジが飯館村から遠くて少し大変でした。
- 今回2日目の受け入れとポスターセッションへ参加させていただきました。受け入れ側として他の団体がどのような形で受け入れされるのかわからない中で受け入れでしたので、重複してしまった部分もあるのでは？と不安になったところもありましたが、無事に終わって良かったです。学生たちの素直な思いや感想を聞きながら、まだまだ発信方法に可能性があるのだと思いました。まとめる力もあり、発表もとても良かったです。
- 1日目のトークダンスから参加しましたが学生の意欲を感じ、ふるさとについて学ぶ楽しさみたいなのを感じられました。フィールドワークや発表もちゃんとまとめて良かったです。



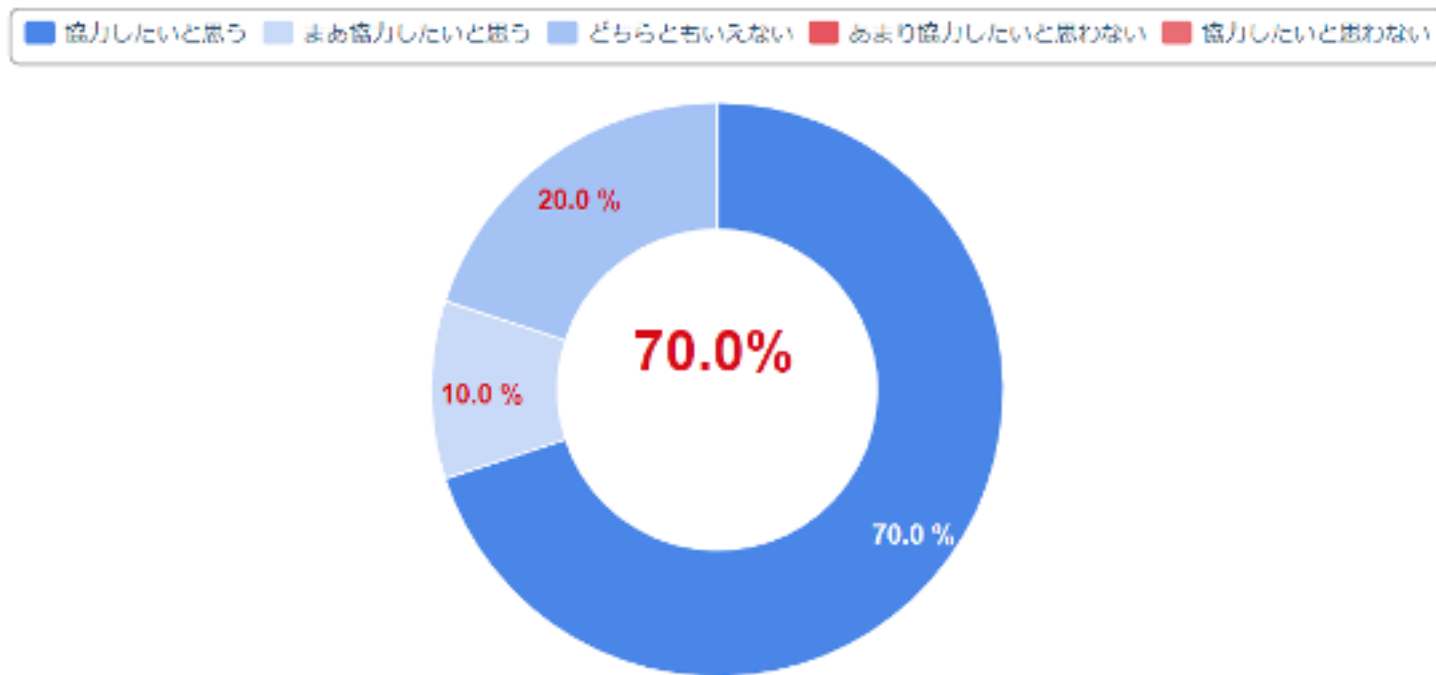
## ● 参考：③協力事業者アンケート結果

Q.今回、参加者が制作したポスターに対する感想をお聞かせください。（n=10）

- 1日目のポスター作製に関する説明を事業者も聞いたが、事業者は聞く必要はないと思う。作成したポスターは参加者視点で考えて作ったものであり、一部が切り出されたものとして認識する。どこが響いたかは人によって異なると思う。大きくポスターにするだけでなく、各人が響いたことをA4に1枚まとめて、全員が2分スピーチをやるなども取り入れるとにより、参加者の視点が広がるのではないかと考える。（参加していなかったものでやっていたらスルーしてください）
- 短期間でかなりレベルの高い作品を仕上げていただきました。しかし、事前のファクトチェックは必要かと思いました。
- 素晴らしいポスターをありがとうございました。これがたった数日でできてしまうというのは、素晴らしいです。
- 忘れていたことを思い出させてくれた素晴らしい出来栄だと思います。
- わたしが用意したコンテンツは、二つのスポットめぐりと、私の個人的なお話だけでしたので、なかなかポスターに書き下ろすのは難しかったです。その中で、とても完成度の高いポスターを作成していただきとてもうれしく思います。私の活動を客観的に見るいい機会になりました。ありがとうございました。
- 非常に要点をとらえてまとめられていると思います。
- 私をインタビューするという趣旨を理解していなかったもので、その趣旨に合わせた話が来ていませんでしたが、参加者なりに感じ取ったことをまとめていただいて感謝しております。
- 図図倉庫の取り組みから「人を巻き込む」実践のために手描きでまとめたというプレゼンがとても良かったです。また、まとめきれなかったところを一晩で動画にしてくれていたのが学生さんならですし、ライブ感があって素敵でした。
- ひとつひとつ学生たちの個性が出ていて、見ごたえがありました。写真や色遣いなどつつこむところもありますが、時間がない中であれだけまとめあげるのは大変だったと思います。
- 今回、夜の森とバウムクーヘンを取り上げてくれましたが東日本大震災原子力災害の爪痕が残っている富岡町を見て感じたことや思いも含めポスターが描かれていました。良かったです。

## ● 参考：③協力事業者アンケート結果

Q.次年度も同様のプロジェクトを実施する場合、協力したいと思いますか。※実施の有無は現時点では未定です。  
(n=10)



## ● 参考：④運営委員会アンケート結果

Q.福島県実践の場「“ふるさと愛”プロジェクトin J-VILLAGE あなたに会わせたい「ふくしま」な人～72時間スケッチ旅行～」の運営委員として参加された感想をお聞かせください。（感想、気づき、良かった点、反省点等）（n=8）

- 関係者の皆さま、本当にお疲れ様でした。最後まで滞在できずに申し訳なく思っています。参加者の表情や質問の内容等の反応をみると「あなたに会わせたい ふくしまな人」の大きな目標は達成できたのではないかと思います。ふるさとを形成しているのは「ひと」であるとの思いを強くしました。ありがとうございました。
- 当日までの準備は出られないmtgもある中、定期的なメールや議事録の共有などフォローがなされていて情報に追いつきやすかったです。グループに分かれて案を出すフェーズでは特に自分の意見や他の方の意見をぶつけ合うことができ、コミュニケーションがしやすく感じました。当日は正直、一般参加者との違いはほとんどなかった。特に求められている役割もなかったですし、純粹に企画と向き合うことができたと感じています。
- 去年に引き続き充実したプログラムで、3日間を通して様々なことを吸収し、意識の高い仲間たちから良い刺激を受けることができました。2日目のコースのマッチングの際に、意図があったのかもしれませんが、3箇所だけではなく全てのコースのお話を聞ければよりよかったなと思いました。
- 福島に住んでいる人も知らない、「ふくしま」や「ふくしま」な人との出会い、つながりがよかった。ポスターセッションも、参加者の皆さんの思いが溢れていてよかった。しかし、データの貼り付けだと文字数がどんどん多くなってしまうことがあったので、文字数の制限などあった方がもっとポイントをまとめたポスターができたのではないかと感じた。参加者がみんな笑顔で帰って行ったのでよかった。
- 3日間の行程の中で、様々なプログラムが盛り込まれ、大変貴重な経験ができる機会であったと思う。関係者との難しい調整が直前まで多々あったと思いますが、誠にありがとうございました。
  - ・気づきとして、実践の場当日の話になりますが、夕食等の食事の場面では、1日目の夕食からグループごとの食事になってしまったため、もう少しグループではなく、あまり面識がない参加者同士で食事（又は懇親会等）ができる機会があると良いと思いました。
  - ・最後のフィードバック兼懇親会の部分での愛ポイントの貼付等がさらに活発・充実すると良いと思いました。
  - ・最後の発表ポスターも素晴らしい出来で、参加者のインタビュー力やPCスキルに驚くばかりで、素晴らしかった。

## ● 参考：④運営委員会アンケート結果

- 大変お世話になりました。企画・準備から当日の運営まで、多大な御苦労があったことと存じます。1月からの参加ではありましたが、フィールドワークで初めて訪れる場所もあり、また、学生の皆さんから学ぶことも多く、有意義な場になっていたと思います。今後に向けてですが、**学生へ事前または初日に震災や復興の基本的事項を伝える時間を設けた方がよいのではないか**と思いました。フィールドワーク前に事前学習を済ませておくことで、訪問先でお話を聞く際にもより深く学べるとともに、アウトプットの制作にもいかせると思います。
- 運営委員として今回のプロジェクトに携われて良かったと感じています。本当にありがとうございました！実践の場を振り返り、**今回のアウトプット方法が自分的にとっても面白かった**と感じています。初日の恵さんの説明により、参加者の中で成果物に対する共通認識をつくれたことが良かったのかなと…！！ふるさとトークフォークダンスの時間も、今回のテーマに対する理解を深められ、参加者・”フクシマな人”との心の距離も縮められた感じがあって良かったです！！※話に上がったことがあったかもしれないですが、、Jビレッジさんの芝の上で実施するのも”自然＝ふるさと”感が出てより面白いのかなとも思いました。2日目の訪問先を決める際に、全部のグループを回れる時間があつたらより自分にあつた、興味のある所を選択できたのかなとも感じました！→正直私自身、資料を見た際にここは行かないかな…と考えていたところに最終的には行ったので説明を聞いてみて新たな出会い！もあるなと…(//▽//) とても貴重な経験をありがとうございました。今後、このようなプロジェクトが続くのであればぜひ企画や運営に携わらせていただきたいと考えています。引き続きどうぞよろしくお願いいたします！！
- みなさま大変お疲れ様でございました。2年にわたる準備、大変なご苦労だったとお察ししますが、これだけの人数で、大きな問題がなくスムーズに終わられたのは、ご尽力いただいた賜物だと思います。アウトプットの観点から次年度以降に向けてお役に立てればと思い、以下率直な感想を記させていただきます。まず今回は**2泊3日の枠組みのなかで、制作物を完成させるということでしたが、その制限のなかではやはり成果発表会に近いものしか作れない**と思います。それをよしとするのであれば十分なのですが、次年度以降の自走化、継続化というところも求められていると思いますので、今回はそれに見合ったアウトプットはできなかったのではないかと感じております。いわゆる模造紙発表のものは、どうしても発信力に欠けてしまいます。見た目的な問題だけでなく、**校正や編集、修正作業もままならないので、情報としては不完全なまま発信することになります。学生たちが熱心に取材した内容を世の中に出す、ということであればある程度の制作期間は必要だ**と思います。他の同様の事業では、複数回実施し、その回数と回数の間に校正・編集作業を入れたりしています。もしくは取材体験だけしていただいて、そのあとはプロの編集者が全部引き取って、制作期間を経て制作物を完成させます。**2泊3日のなかで制作物を完成させる行程は、学生にとっても、事業者にとっても、消化不良だったのではないかと懸念**しております。今後は事務的な問題はさておき、複数回訪れてもらいつつ、関係性を構築しながら、じっくりと制作していき、しかるべき媒体で発信していく、のが両者のためではないかなと考えております。地元事業者のニーズを拾って、それに合わせていくことも大切だと思います。長くなりましたが制作物という観点からはいくつか課題が残ったように思えますが、**たくさんの福島の事業者さんと会える機会はとても貴重で、みなさんから感じたパワーに感化されたのは間違いありません。きっと学生の今後の進路選択や将来への解像度も高まったのではないか**と思います。次年度もいい形で引き継がれることを期待しております。お疲れ様でございました。